受付番号　第 *2022005* 号
承認日：2022 年 5 月 30 日

研究概要

1. 研究名称 または課題名テーマ等

本邦の常染色体優性多発性嚢胞腎（ADPKD）患者における脳動脈瘤の発症とスクリーニングの実態調査

2. 研究責任者（当院）

所属： 腎臓内科
氏名：寺崎　紀子

共同研究の場合は代表機関 及び 代表者名

機関名：北海道大学病院　リウマチ・腎臓内科
代表名：西尾　妙織

3. 分担研究者

○順天堂大学医学部附属順天堂医院　泌尿器科　武藤　智
○東京女子医科大学　血液浄化療法科　土谷　健
○大阪市立大学　代謝内分泌病態内科学　仲谷　慎也
○大阪府済生会中津病院　腎臓内科　嶋津　啓二
○京都医療センター　腎蔵内科　瀬田　公一
○慶應義塾大学医学部　腎臓内分泌代謝内科　内山　清貴
○国立成育医療研究センター　腎臓・リウマチ・膠原病科　佐藤　舞
○竹田綜合病院　内科　三戸部　倫大
○済生会松阪総合病院　内科・腎臓センター　石川　英二
○藤田医科大学医学部　腎臓内科学　林　宏樹
○湘南鎌倉総合病院　腎臓病総合医療センター　日高　寿美
○筑波大学附属病院　腎臓内科　山縣　邦弘
○東京慈恵会医科大学　総合診療内科　花岡　一成
○虎の門病院分院　腎センター内科　諏訪部　達也
○虎の門病院　腎センター内科　星野　純一
○琉球大学　大学院医学研究科育成医学（小児科）講座　中西　浩一
○聖マリアンナ医科大学病院　腎臓高血圧内科　市川　大介
○新潟大学医歯学総合病院　腎膠原病内科　成田　一衛

4. 研究対象者

2015 年 4 月 1 日～2021 年 6 月 30 日の間に、聖隷佐倉市民病院において定期通院、または入院した ADPKD 患者。

5. 研究の必要性

常染色体優性多発性嚢胞腎（Autosomal Dominant Polycystic Kidney Disease: ADPKD）は最も多い遺伝性腎疾患であり、本邦では 3,000-7,000 人に一人の罹患率と推定されている。ADPKD は大小さまざまな腎嚢胞が多発し、その増大に伴い腎容積の増加と腎機能の低下をきたす疾患である。腎以外に肝臓、膵臓に嚢胞が多発するだけでなく、高血圧や脳動脈瘤など全身に様々な合併症が知られている。ADPKD に伴う脳動脈瘤は、一般より約 2-7 倍発症頻度が高く[1),2)]、脳動脈瘤破裂による脳出血は患者の生命予後に強く影響する重篤な合併症である。本邦では、多くの施設で ADPKD 症例に対して MRA を用いた脳動脈瘤スクリーニングが行われていると予想される。しかし、海外では費用対効果の点から否定的な報告が少なくない。残念ながら、未だ本邦の ADPKD における脳動脈瘤の発症とスクリーニングの実態は未調査であり、今後 MRA によるスクリーニングを推奨すべきかどうか判断材料に乏しく不明な点が多い。

本研究は、厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）難治性腎疾患に関する調査研究班、日本腎臓学会・日本小児腎臓病学会の協力のもとに行うものである。日本腎臓学会および日本小児腎臓病学会の専門医の存在する施設に ADPKD 患者の脳動脈瘤に関する 1 次アンケートを行った。本研究は、1 次アンケートに対する回答が得られた 217 施設のうち、各施設の倫理委員会の承認が得られた施設にさらに詳細な 2 次アンケートを送付することで調査を行う。(1) 脳動脈瘤の有病率、(2) 脳動脈瘤の破裂・治療率、(3) 脳動脈瘤スクリーニング施行率、(4) スクリーニングによる新規脳動脈瘤発見率、(5) 脳動脈瘤の発症部位、形態、個数などの解析を行う。

6. 研究等によって生ずる個人への影響と医学上の貢献の予測

本研究は施設に対するアンケート調査であり、本研究により個人への影響は発生しない。ADPKD 患者に対する脳動脈瘤スクリーニングの実態を把握し、今後 MRA によるスクリーニングを推奨すべきかどうか判断できる。

7. 対象者、関係者等からの問合せ先（当院）

連絡先番号：043-486-1151
担当者氏名：寺崎　紀子
対 応 時 間：承認～2023 年 3 月 31 日

共同研究において専用窓口がある場合

【相談窓口】
研究代表者　西尾　妙織
〒060-8638 北海道札幌市北 14 条西 5 丁目
北海道大学病院　リウマチ・腎臓内科
電話　011-706-5915　　FAX　011-706-7710

※ご注意
対象者とは、本研究に参加された方です。お問合せは、本研究に参加された方と研究関係者のみで、その他の方へのご対応はできませんので、予めご了承願います。